

清流

題 字 : 芳野 充

令和 7 年 8 月 30 日

第 104 号

発行所 加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに

静かに

清流のように

ほんとうの素直さ

企業が人を採用する際、重要視している要素に「素直な人」と、あげられることが少なくありません。素直な人は、周囲の意見や環境に対応できる柔軟な人で、それゆえ結果を出せる人だからではないでしょうか。

一方で「素直な人」と聞くと、何となく個性が感じられず弱々しいというイメージをもつ人もいます。

その理由の一つに、「人の意見には“素直”に従う」などと表現されるように、自分の意見があったとしても相手の意見に従わないといけない、とイメージするからではないでしょうか。つまり「素直な人」とは、自分の意思や個性が無視された「従順な人」とうつるのでしょうか。しかし、ほんとうの素直さとはこのイメージとは別物だと思ふのです。経営の神様とうたわれた松下幸之助氏は、素直についてこのように語っています。

「素直な心というものは、だれに対しても何事に対しても、謙虚に耳を傾ける心である」

これを見ると、「従順な人のイメージと大差ないじゃないか」と聞こえてきそうです。ですが「謙虚に耳を傾ける心」という一節が肝要で、そのなかに「人の意見にとにかく従順に従え」という意味は、込められていないのではないのでしょうか。

「だれに対しても何事に対しても、謙虚に耳を傾ける心」とは、自分のなかに明確な意思や意見があったとしてもそれは脇におき、相手の意見に耳も心もしっかりとむけることであり、自分にとって頭にくることや納得いかないことが起きたとしても、「このできごとは、自分に何かを知らせてくれているのではないだろうか」と他責にするのではなく、自分のなかに原因を見つつけようとする柔軟な姿勢だと思ふのです。

そう考えるとほんとうの素直さとは、先であげた個性がなく弱々しいイメージとは裏腹に、しっかりとした個性やつよい覚悟があり、かつ優しさやしなやかさを兼ねそなえている、と言えそうです。

では、素直さを身につける方法があるのか、と問えば、これも松下幸之助氏が「素直な心を養うための実践十ヶ条」をあげています。そのなかでわたしも大切にしている四つをご紹介します。「第一条 つよく願う：素直になりたいと強く願うこと」「第二条 自己観照：自分自身を客観的に観察し、正すべきを正していく」「第三条 日々反省：毎日、自分の行いを反省する」「第五条 自然と親しむ：心して自然と親しみ、大自然の素直な働きに学ぶ」。

ほんとうの素直さを身につけるのは、果てしない道のりですが、自分をあきらめずに一步一步すすんでいきます。

加来 寛

